

半田市地域公共交通計画【概要版】

1 計画の期間と区域

【計画の期間】

計画の期間は、**2025年度～2030年度の6年間**としますが、関連する法令・制度の変更や、社会情勢の変化等に合わせた対応が必要となった場合においては、計画の変更等を行います。

【計画の区域】

市内の公共交通全体を一体的に取り扱うことから、計画の区域は**半田市全体**とします。

なお、本市と周辺市町とを連絡する公共交通ネットワークの状況や、住民等の日常生活における市域を超える交通圏など、周辺市町に関わる事項については、個別に協議・調整を図ることとします。

2 交通将来像と基本的な方針

交通将来像 **まちとひとがつながり 暮らし続けられる都市 はんだ**

地域公共交通の課題

- (1) 変化する都市施設・
まちづくりの状況に対応すること
- (2) 少子化・高齢化に対して、
地形や地域ごとの人口動向を
考慮した対応をとること
- (3) 公共交通不便地域の解消と、
拡大した公共交通手段の周知による、
公共交通利用者を確保・維持すること
- (4) 公共交通の持続可能な運行に繋がる
取組を継続・展開すること

基本的な方針

課題(1)・(3)・(4)より

I 知多半島を縦横に移動できる

公共交通を維持します

課題(1)・(2)・(3)・(4)より

II まちやニーズの変化に合わせた

公共交通へ改善します

課題(2)・(3)・(4)より

III もっと利用される公共交通を目指します

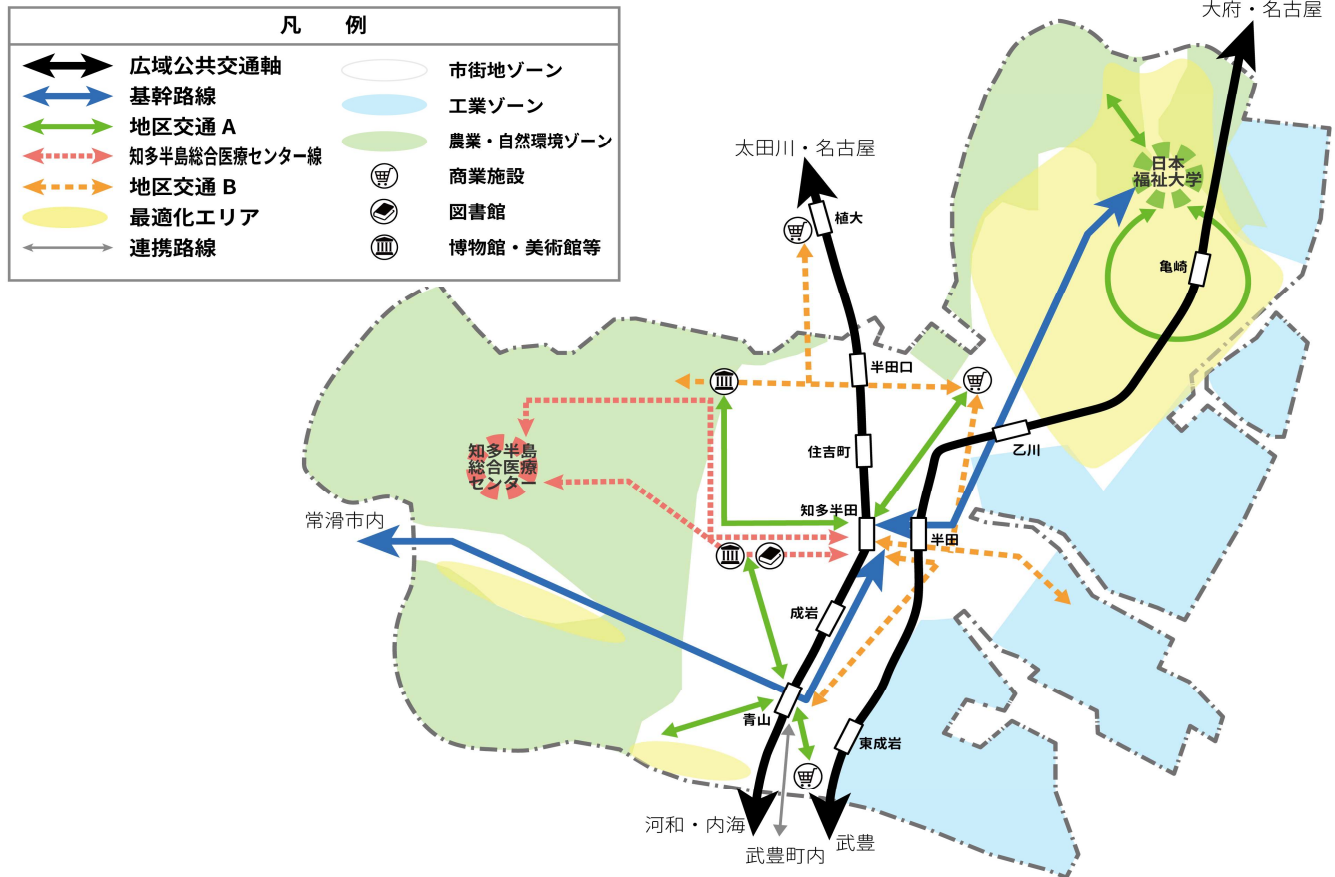
課題(1)・(2)・(3)・(4)より

IV 新たな取組とみんなのつながりで

公共交通を支える体制を強化します

3 地域公共交通の役割と位置付け

▼ 半田市の公共交通の将来ネットワークイメージ



▼ 市内公共交通機関の位置づけと役割

位置付け	対象路線等	役割
広域公共交通軸	名鉄河和線 J R 武豊線	- 本市と名古屋、武豊、美浜方面を結ぶ路線 - 広域的な移動需要に対応
基幹路線	知多乗合 半田・常滑線	- 本市と常滑市の鉄道駅や中部国際空港を結ぶ基幹的な路線 - 広域的な移動需要に対応 - 地区交通 A と連携した運賃体系で運行
	知多乗合 半田北部線	- 本市北部と中心市街地を結ぶ基幹的な路線 - 地区交通 A と連携した運賃体系で運行
地区交通 A	ごんくる 亀崎・有脇線／半田中央線／ 青山・成岩線 知多半島総合医療センター線	- 本市内でまとまった需要が見込まれる地区を運行する地区交通 - 市内の移動需要に対応 - 基幹路線と連携した運賃体系で運行
地区交通 B	岩滑小線／成岩東部線／瑞穂線	- 地区交通 A よりも需要の少ない地域で運行する、地区住民主体で構築する地区交通 - 基本的に地区内の移動需要に対応
おでかけタクシー	横川小学校区／有脇小学校区／ 板山小学校区	地域内の昼間帯における少量かつ個別の移動に対応するための、一般タクシーを活用した制度
個別輸送	知多半島総合医療センター 直行タクシー	市内自宅と知多半島総合医療センター間の移動に特化した、一般タクシーを活用した制度
	一般タクシー	他の公共交通で時空間的にカバーできない部分の移動に対応
連携路線	隣接市町コミュニティバス (武豊町：ゆめころん)	本市内を運行する公共交通と連携し、隣接市町間の移動需要に対応

I 知多半島を縦横に移動できる公共交通を維持します

⇒目標① 広域連携に適した公共交通ネットワークの維持・活性化

- ・事業 1-1 広域公共交通軸・基幹路線の運行維持
- ・事業 1-2 地区交通の運行維持
- ・事業 1-3 おでかけタクシー制度の維持
- ・事業 1-4 隣接自治体とのバス交通による広域連携の継続

II まちやニーズの変化に合わせた公共交通へ改善します

⇒目標② 半田病院の移転などまちづくりと連携した市内公共交通の再編

⇒目標③ 市民の移動を支える最適な移動手段に向けた地区交通の再構築

- ・事業 2-1 まちや社会の変化に対応した移動手段の確保と最適化
- ・事業 2-2 ライフステージに合わせた公共交通の利用支援
- ・事業 2-3 交通空白地域での移動手段の確保

III もっと利用される公共交通を目指します

⇒目標④ 市民にも来訪者にも利用しやすい公共交通のための情報提供

⇒目標⑤ 利用者の拡大につながる乗車機会の創出

- ・事業 3-1 わかりやすい運行情報の継続発信
- ・事業 3-2 各種公共交通の利用説明会の実施
- ・事業 3-3 タイアップ事業の継続実施
- ・事業 3-4 公共交通に関心を持ってもらうことができるイベントの実施
- ・事業 3-5 定額運賃制度の継続と各種利用券の見直し

IV 新たな取組とみんなのつながりで公共交通を支える体制を強化します

⇒目標⑥ 地域の活動を支援する取組の展開

⇒目標⑦ 持続可能な公共交通の運行に向けた取組の強化

- ・事業 4-1 バス会に対する支援の継続
- ・事業 4-2 新たな技術・サービスなどに関する調査・研究
- ・事業 4-3 運転手確保に向けた交通事業者との連携・協力
- ・事業 4-4 カーボンニュートラルへの対応

5 計画の評価指標と数値目標

本計画の達成状況を評価するための評価指標と数値目標について、次の通り定めます。

計画の評価指標とは別に、計画の進捗に付随する指標について「モニタリング指標」を設定し、毎年度評価する性質の評価指標とともに、毎年度確認を実施します。

▼ 計画の評価指標と数値目標の一覧

基本的な方針	目標	評価指標	現状値	目標値	測定方法
知多半島を縦横に移動できる公共交通を維持します	広域連携に適した公共交通ネットワークの維持・活性化	基幹路線の路線数	2路線 2024 年度	現状値を維持 2030 年度	時刻表等により集計
まちやニーズの変化に合わせた公共交通へ改善します	半田病院の移転などまちづくりと連携した市内公共交通の再編	公共交通で目的地へ行くことができる人の割合	73.8% 2023 年度	83.2% 2030 年度	市民アンケート調査で測定 ※中間評価・最終評価で実施
	市民の移動を支える最適な移動手段に向けた地区交通の再構築	公共交通人口カバー率	89.6% 2024 年度	現状値より改善 2030 年度	GIS ソフトにより測定 ※人口は 250m メッシュを使用
もっと利用される公共交通を目指します	市民にも来訪者にも利用しやすい公共交通のための情報提供	「バスがどのように走っているかわからない人」の割合	19.6% 2023 年度	14.6% 2030 年度	市民アンケート調査で測定 ※中間評価・最終評価で実施
	利用者の拡大につながる乗車機会の創出	公共交通利用者の満足度	37.5% ※バス利用者 2023 年度	56.5% ※バス利用者 2030 年度	市民アンケート調査で測定 ※中間評価・最終評価で実施
		利用促進策の実施回数	3 件/年 2023 年度	4 件/年 2030 年度	実施回数を集計
新たな取組とみんなのつながりで公共交通を支える体制を強化します	地域の活動を支援する取組の展開	地域が関係者と連携・協働した取組の件数※	11 件/年 2023 年度	14 件/年 2030 年度	実施回数を集計
	持続可能な公共交通の運行に向けた取組の強化	持続可能な公共交通の運行に基づき、上記目標達成のため、必要な資源等の確保に努めます。			

※「地域」とはバス会をはじめとする市民や企業等を指します

▼ モニタリング指標の一覧

指標	現状値	測定方法
市内鉄道駅の利用者数	17,930 人/日 (2023 年度実績)	事業者提供データを集計
基幹路線・地区交通の利用者数	1,033 人/日 (2023 年度実績)	事業者提供データを集計
おでかけタクシーの利用登録者数	有脇地区：310 人／横川地区：342 人／板山地区：619 人 (2025 年 2 月 1 日現在)	登録者数を集計
地区交通の収支率	地区交通 A：9.91%／地区交通 B：9.69% (2023 年度実績)	事業実績を集計